

## I can speak English

藍住東中学校 水野 佑亮

僕にとって、このオーストラリア研修が初めての海外でした。

東京からオーストラリアまでの飛行時間は9時間で、その間ずっと不安でした。

「ホストファミリーはどんな人だろう」、「自分の使う英語で相手は理解してくれるだろうか。」いろんな不安が頭の中を駆け巡っていました。

オーストラリアに着いて1日目は、シドニーを市内観光しました。シドニーのオペラハウスやダーリングハーバーなどを見て緊張はだんだん解けワクワクしてきました。

ホストファミリーと初めて会った時、優しくそうな人たちでホッとしました。お父さんはエンジニアで陽気な人でした。お母さんは教師で料理がとても上手でした。フライドチキンはケンタッキーよりもおいしかったです。兄のハドソンは僕と同じぐらいの年で、ちょっとやんちゃで面白い人でした。妹のオースティンは12歳で活発な女の子で、トランポリンで前転宙返りのやり方を教えてくれました。

次の日はホストファミリーとオフロードバイクを乗りこに山に行きました。乗り方の説明はもちろん英語で、半分ぐらいしか理解できずに乗ったので2回ぐらい死にかけました。ホストファミリーとはじめての食事をした時、キリスト教のお祈りをしてから食べ始めたので日常に宗教があるのだなあと感じました。



学校生活はバディのウィル、ザビエル、アイザックの3人が初日から積極的に話し掛けてくれたので、とても楽しく過ごせました。バディ以外の人と一緒にランチを食べたり色々な話をしました。例えば休み時間、ベジマイトというパンにつけるペースト状の食べ物を食べてみてと言われました。食べてみると、正直涙が出るほどまずかったです。それは様々な野菜をイースト菌で発酵させたもので、オーストラリアの人たちはみんなおいしいと言っていました。学校の行き帰りは、ハドソンと一緒にバスで通学しました。顔見知りになった子と会話できたことがとてもうれしかったです。

ハドソンにキリスト教のパーティーに連れて行ってもらいました。讃美歌を歌ったり聖書を読んだりしていました。

そこで日本とアメリカのハーフのネオに会いました。ネオは日本語を話せたので久しぶりに日本語で話をすることができました。

ネオにオーストラリアで気を付けた方がよいことを聞いてみました。オーストラリアには毒グモや、毒蛇がいるし普通に毒グモは家の中にあることがあるよと言っていました。あとアメリカと違って、銃を一般市民は持ってはいけないそうです。

バディやホストファミリーと別れの時は、やっと親しくなったのにもう別れなければならないかと思うととても悲しかったです。

今回の研修で学んだことは、自分の話す英語でも怖がらずに積極的に話しかければ言いたいことは通じる、オーストラリアは日本より宗教が身近にあると感じました。

将来はオーストラリアに住んでみてもいいなと思うぐらいオーストラリアのことを好きになりました。とても楽しい10日間でした。

